

※「はらまち九条の会」では常時、党派を超えて会員を募集中です。年会費千円。



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.117

2009(平成21)年12月7日(月)発行



<12月7日は、明治時代の情熱的浪漫歌人・謝野晶子(1878~1942)の誕生日>

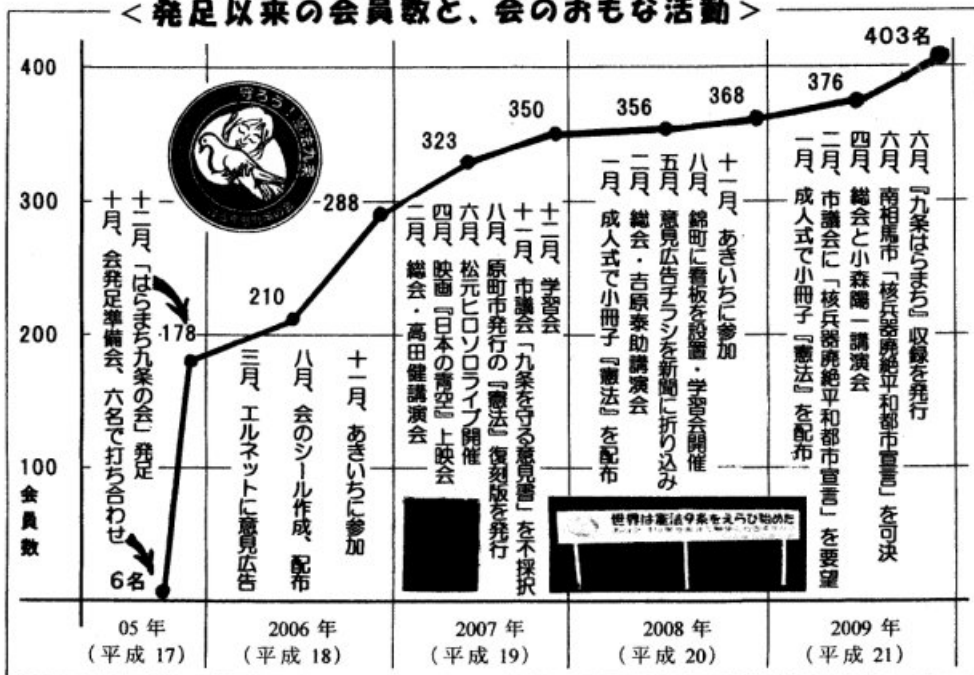
■明治11年、大阪の堺の商家に生まれる。鉄幹とともに「明星」の中心となり、肉体と感情の解放をうたいあげた。五男六女の母として養育にも苦労。日露戦争に出征する弟の無事を祈念した反戦的長詩『君死にたまふことなかれ』や奔放な短歌も著名です。

「少女と申す者たれも戦争ざらいに候」(『ひらきぶみ』)

「はらまち九条の会」発足から4年 会員が400名を超えました

2005(平成17)年12月7日の会発足から4年、下のグラフのように会員も403名になりました。会員数は原町区45,000人の中の「たった403人」か、それとも「403人も」と考えるべきでしょうか。会員のみなさまのご協力に感謝しつつ、発足から今日までのおもな活動もメモしてみました。

<発足以来の会員数と、会のおもな活動>



会員の居住地

原町区	335	鹿島区	12	小高区	13	相馬市	9	浪江町	4	双葉町	3	福島市	2
郡山市	2	大熊町	1	いわき市	1	白河市	1	伊達市	1	川俣町	1	東京都	7
宮城県	3	千葉県	2	神奈川県	3	埼玉県	1	群馬県	1	栃木県	1	計	403名

■会員403名のうち、氏名公表可の方が334名、匿名の方が69名。■会結成からこれまでの実際の入会者は418名。でも入会后、市外への転居や病气入院、ご逝去などのため、会員でなくなった方は15名です。

■11月30日入会され、節目になる400人目の新会員は、小高区の菅野さん。菅野さんは1945年(昭和20年)生まれのいわゆる“終戦っ子”で、事務局員の番場、井上、山崎と同級生・同年配生です。

■4月に横浜に転居されたMさん(76歳)ですが、12月になって「不戦の思い新たに、引きつづき会員として参加させていただきます。」とのお手紙をいただきました。嬉しい、元気の出るお便りです。

◆今年生誕百年（1909年・明治42年生まれ）の作家松本清張、太宰治、大岡昇平、中島敦、山本周五郎が話題となり、福島県内出身者では作曲家古関裕而、小高区ゆかりの作家塩谷雄高も生誕百年です。

“ハネダ・カンポスすい星”の発見者 羽根田利夫氏も生誕百年！



31年前 69歳で世界最高齢・福島県内唯一の comet ハンター

★南相馬市原町区出身、世界的な業績を残され、生誕百年の方がおられます。“ハネダ・カンポスすい星”の発見者羽根田利夫氏です。市博物館では9月19日（土）、義理の姪羽根田ヨシさんの記念講演とビデオ上映会が開催され、博物館内には常設の羽根田さんの紹介展示コーナーもあります。
▲羽根田利夫さんと、手作りの天体望遠鏡（口径85ミリ・焦点720ミリ・27倍屈折式）。胴体も三脚も羽根田さん自身が作り上げ、毎日の天体観測に使用しました。

明治42年 原町区馬場生まれの羽根田さん

羽根田利夫さんはちょうど百年前の、1909（明治42）年9月6日原町区馬場に生まれます。相馬中学に入学し斎藤邦吉氏（のちの代議士）と同級生でしたが肺結核で中退。微熱で眠れぬ夜、そっと夜空の星々に健康を祈ったことが、やがて天体観測、すい星の発見に結びついたのでしょうか。

「俺も戦争の犠牲者だよ」

東京電気専門学校を卒業し、東京の会社に就職。病弱でしたが太平洋戦争で召集され陸軍に入隊し苦労しますが、几帳面さや達筆が幸いして書記の仕事を任せられます。

戦後無事復員し人手のない原町の実家に呼び戻され、甥の羽根田二三男さん・ヨシさん宅の離れに住みます。技術者として原町区の電気店に勤めましたが、「いい仕事で高給だった東京の会社を辞め、俺も戦争の犠牲者だよ」と話していました。

昭和53年9月1日夜、愛犬に誘われて

趣味の天体観測は毎夜の日課でしたが、1978（昭和53）年9月1日夜のことです。曇空だったのでその日は星の観測を休もうと思っていました。8時過ぎ、寝つかれなかったので「本でも読もう」と本を取りに立ち上がると、愛犬コロが観測小屋へ行くものと思っただけで、さかんに尾を振り、体をすり寄せしきりに吠えるのです。仕方なくコロに誘われるように出かけ

愛犬コロ



「一体あの星は… 新しい星では…」

9時25分、宝石をはりつめたような宇宙の一点、ヤギ座の南にあるケンピキョウ座の一角に、“白い雲状の天体・彗星っぽい”が見えたような気がしました。9等星ぐらいの星ですが、星図を見直しても記録されてはいません。すぐに雲が出てきて、その夜の観測はそれであきらめました。しかし、「一体あの星は…。新しい星ではないか…」と、気持ちが高ぶり、なかなか寝つかれない夜でした。

翌9月2日、朝から夜になるのが待ち遠しい一日でした。夜9時、観測小屋にこもりますが、南の空は雲におおわれ星は見えませんでした。でも10時30分になって、なんとか昨日の“彗星”を再び確認することができたのです。

胸がどきどきするのを抑えながら、東京天文台に「私は9月1日、新しいすい星を発見し、2日再確認しました」と連絡。しかし、すでに南アフリカのダーバン市のカンポスという人が新すい星の発見の届け出を済ましていて、「残念ですが、羽根田さんが新発見者になるかどうかはわからない」という返事でした。

「ハネダ・カンポスすい星」命名のわけは

家族全員落胆のうちに迎えた翌日、再び東京天文台から電話で「アメリカのスマニオン天文台への届け出はカンポスさんが早いですが、すい星を発見したのは羽根田さんが9時間早い。それで“ハネダ・カンポスすい星”と名づけます。おめでとうございます」という大変嬉しい連絡がありました。69歳の9月6日誕生日の直前のことでした。

こうして羽根田さんは、69歳で世界最高齢、また福島県内唯一の comet・ハンターとして、県内はもとより全国や世界中から大きな脚光を浴び、マスコミでも大きく報道されるようになりました。

町の明かりの入らない、田んぼの土手を利用して作られた天体観測小屋。台座の石積みは、三百メートルも離れた太田川の原から、羽根田さんが一人でコンクリートと一輪車で、大きな石を一個一個運んで築き上げたもので、感動的です。



羽根田さんは、1992（平成4）年3月8日、83歳で亡くなります。すい星発見は、幸運というよりも濃厚で篤実な人柄、少年時代からの地道な研究、そして日々の観測の努力の賜物と讃えられています。

羽根田ヨシさん・二上英朗さんのこと

また、50年間病弱で独身だった利夫さんのお世話を夫の二三男さんと共に続け、その人柄と業績を『星の彼方に夢を求めて』（平成15年）＜写真＞という本に著した羽根田ヨシさん（甥の妻）のこと、またカンポスさん一家を連れ、南アフリカに訪ね、晩年の利夫さんとカンポスさんを国際電話で話す機会をつくりあげた二上英朗さん（原町区出身・福島市在住）のご尽力やご功績なども、さらに注目されなければならないことと思われます。



○羽根田さんの観測小屋の石積＜写真＞は現在、風雪で崩れた箇所も出てきて、羽根田ヨシさんは「早急に補修が必要」と訴えています。南相馬市が世界に誇る、かけがえのない“文化遺産”であり、現代の貴重な“史跡”です。公費での補修や完全保存、史跡指定も考慮すべきではないでしょうか。